

〈図画工作〉

創造的に表現する態度を育てる指導の工夫

— 中学年の造形遊びを通して —

キーワード：図画工作・造形遊び・身近な場所

平良市立狩俣小学校教諭 新垣貴子

I テーマ設定の理由

国際化や情報化が急激に進展し、社会の状況が大きく変化している今日、学校教育においては、児童一人一人に豊かな人間性の育成、一人一人の個性を重視する教育の充実等を推進することが強く求められている。

そこで、図工科においても、これからの時代の変化に主体的に対応できる能力や創造性を培うため、造形体験をさせることが必要だと考える。

そこで本研究では、魅力ある教材との出会わせ方を工夫することによって、自分がしてみたいことや表したいことを自分たちで見つけさせるようにしたい。また人工の材料と自然物を組み合わせる活動過程で豊かな発想をさせたり、自分たちの身近にある自然物の面白さや良さに気づく機会も与えていきたい。このように造形遊びの学習を展開する過程で、子供たちは今まで以上に造形活動を楽しみ、自己の資質や能力を総合的に働かせ、創造的に表現する態度を育てることができると考え本テーマを設定した。

〈研究の仮説〉

中学年の造形遊びにおいて、身近な場所を活用し、一人一人の考えを生かした造形活動に取り組むことができるように、支援の仕方や評価方法を工夫することによって創造的に表現する態度を育てることができよう。

II 研究内容

1 創造的に表現する態度とは

図画工作の目標の中に「造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う」とある。この目標を達成するためには、児童が自分の考えや思いで素直に造形活動に取り組み、自ら進んで様々な表現活動をし、造形活動に自分らしさを増やしながらか育っていくことであると考ええる。

2 造形遊びについて

自分流につくりかえる活動である造形遊びは、独自性を発達させるチャンスであると考えられる。

- (1) 過程の楽しさを味わう造形活動である。
- (2) 全体を働かせる楽しい感動体験活動である。
- (3) 自分らしさを深める楽しい造形活動である。

3 魅力ある教材（材料や場所との効果的な出会わせ方）

4 評価方法について

(1) 造形遊びの評価の考え方

児童一人一人にスポットを当て、その活動を見取っていくことを中心とした評価をしていく。

(2) 造形遊びの評価の方法

学習の過程において子供の良さや可能性を読み取る評価を行うためには、児童一人一人の学習の足跡を記録する必要がある。そこでこのような評価法をすすめていくことにする。

① 教師による観察評価

② ポイントカードで自己評価

③ 貝殻を使った自己評価

④ ビデオ視聴の時間を設けたりする。

⑤ ポートフォリオ評価

⑥ その他の評価方法



III 指導の実際

1 題材名

2 題材の目標

3 題材設定の理由 (1) 題材観 (2) 児童観 (3) 指導観

4 教材の指導計画 (12時間)

5 指導過程 本時の指導 (1) 目標 (2) 本時の展開



6 授業の考察及び仮説の検証

(1) 支援の実践から

- ① 教師による言葉の精選から
- ② 材料や場所等との効果的な出合わせ方の工夫から
- ③ 身近な場所（浜辺を活用したことによって）

(2) 評価方法の工夫から

① 振り返りカードから

児童の変容を調べるため、毎時間振り返りカードへの記入を実施した。その項目の中で「やり方を考えたり思いついたりすることができましたか。」の質問に対し毎時間81%の児童がとてもできたと答えていた。また「自分らしく工夫することができましたか」の質問にも91%の児童ができたと答えた。このことからこの自分らしく表現する態度が育っていった。

② ポイントカードから

自分なりのめあてを考え、学習に臨んでいた。カード使用後の感想にも「かわいいシールが3枚ほしいので目標を全部達成した。」の声があった。このポイントカードを活用したことが学習意欲につながり自分らしく活動したことが分かる。

③ アンケートの結果から

学習前のアンケートで満足したものに造形遊びをあげている児童は皆無だったが、今回造形遊びを実施したことで、造形遊びを知り、12人全員が造形遊びが好き、これからもぜひやりたいと答えている。

(3) 児童の変容から

① 児童の感想から

今回の授業で造形遊びの学習内容を十分に楽しんだことが児童の感想と観察から伺い知ることができた。

○イスと傘を組み合わせると面白い（Kさん）
■自分だけのお気に入りの場所を探している場面。表現方法を創意・工夫していると思われる。

○水をためる方法をもっと考えたい（Tさん）
■棒を固定できずに海水を使って砂を固めている場面。児童の発想・構想の能力が働いていると思われる。

② 児童の観察から

①戸惑い

この児童は第一次（①戸惑い）では表現の仕方がわからず活動が止まっていた。

②試行錯誤

活動段階の途中 会話の中から流木と板材を組み合わせることを思いつき

③表現

お気に入りの涼しい場所作りに成功した。創造的に表現する態度が育っていった

IV まとめと今後の課題

今回「創造的に表現する態度を育てる指導の工夫」として研究を進めてきた結果、浜辺を活用し、一人一人の考えを生かした造形活動に取り組むことができるように支援の仕方や評価方法を工夫することによって創造的に表現する態度が育つことがわかった。以下成果と課題をまとめた。

- 成果
- (1) 野外の活動で体全体を使い、思いきり活動させることで、造形遊びを十分楽しむことができた。
 - (2) 材料や場所等と効果的に出合わせることで、児童の発想・構想の能力が高まった。
 - (3) 評価方法を工夫することにより、児童が意欲的に活動し、創造的な態度を育てることができた。
 - (4) 児童一人一人の活動を見取ることで児童の変容に気づき、適切な支援をすることができた。

課題 (1) 造形遊びにおいて、個に応じた表現をさせるための教師の支援や評価方法の研究。

(2) 造形遊びにおける教材の開発や材料の取捨選択の研究をする必要がある。

【主な参考文献】

- 栗田真司2004『図画工作評価ハンドブックー評価基準例付きー』東京書籍
板良敷敏2002『小学校図画工作科基礎基本と学習指導の実際』東洋館出版社
熱海則夫1998『個人差に応じた学習指導の展開』ぎょうせい